

第4学年1組 国語科学習指導案

児童数 36名
指導者 海老澤 健一

1 単元名 音読名人になろう 「ごんぎつね」

2 単元について

- 教材文「ごんぎつね」は、起承転結がはっきりした6つの場面で構成されており、時間や場所が具体的に書かれているので、内容がつかみやすい構成である。また、第5章までは主人公「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、場面の展開に沿って人物の性格や心情の変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品といえる。また、作品の随所に、視覚表現と聴覚表現を組み合わせた鮮明で見事な情景描写がふんだんに盛り込まれている。本単元では、そのような叙述を根拠に想像して読み、音読表現に生かすようにしたい。
- 子供たちは、これまでの文学教材において、登場人物の言動、情景を表す言葉等に着目し、登場人物の気持ちの変化を捉える学習をしてきている。「こわれた千の楽器」の学習では、物語を楽しみながら登場人物の会話や行動を読み取り、感情を込めて音読することができた。しかし、内容の大体を捉えて音読することはできるが、登場人物の思いの変化を深く読み取ったり、細かい叙述に注意して音読表現をしたりする力が十分身に付いているとはいえない。本単元の学習を通して、既習の読みの力を生かして、叙述を基に人物の性格や人柄等を想像する力を伸ばしたい。

3 本時の学習（6/13時）

(1) ねらい

くりを置いて帰るごんの気持ちや様子を、叙述を基にして、想像を広げて読むことができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	時配	指導上の留意点と評価 評価 <観点> (方法) アンダーラインは研修主題との関連 (視点) 特別な配慮を必要とする子供への支援 ☆	資料等
見通しをもつ	1 課題を確認する。	2	・前時までに自分の考えをまとめておき、課題に対する考えを話し合えるようにする。	
	くりを置いて帰るごんの気持ちを想像しよう。			
学び合う	2 ごんがくりを置いていく場面を音読し、友達と考えを交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">3人のグループを基本としたワールドカフェ方式による話し合い</div>	13	・自分の考えの根拠となる叙述を、カードで示しながら説明し、考えを明らかにして話し合いに臨めるようにする。(視点1) ・友達との話し合いの場を設け、自分の考えを整理したり自分の考えとの相違点を考えながら聞いたりできるようにする。(視点2)	カード
	3 全体で話し合う。 ・兵十へのうなぎの償いにくりを置いたのだと思う。 ・「どっさり」くりを拾っているから、ごめんなさいの気持ちがあったんじゃないかな。 ・ごんは、「そっと」物置の方へ回ってくりを置いていたので、兵十に気付かれないのだと思う。	25	・考えの根拠となる言葉を明確にすることで、場面の様子を叙述から読み取ったり、想像して考えたりできるようにする。 ・「どっさり」や「そっと」の副詞に着目した意見を取り上げ、ごんの気持ちを考えさせる。 ・ごんの行動を時系列に板書することで、兵十への思いが強まっているごんの気持ちの変化を捉えられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">くりを置いて帰るごんの気持ちや様子を読み取ることができる。 <読むこと> (発言・カード)</div>	
振り返る	4 振り返りカードを書き、学習を振り返る。 ・「次の日も、その次の日も」のところを、ごんの償いの気持ちを想像して音読したい。	5	☆書き出せないでいる子供には、板書からキーワードとなる言葉を見つけて書くよう助言する。	

(3) 視点

ワールドカフェ方式によるグループの話合いから全体の話合いへとつなげることは、子供たちの学びの主体性を高めることや学びを深めることに効果的であったか。

4 板書計画

音読名人になろう

ごんぎつね 新美南吉

くりを置いて帰る
ごんの気持ちを想ぞうしよう。

兵十のおつかあ うなぎのつぐない

生きのいいいわし
何としてもあやまりたい

次の日には
どっさり おわび
喜んでほしい

たくさん
落ちこんでいる兵十へ つぐない
元気になってほしい ごんの気持ち

そつと 置く
かわいそうに
見つかっただめ
ころされる

次の日も
その次の日も
その次の日には 許してほしい

兵十の心には、とどいていない。

MEMO